

2016年度 学校評価

学校評価シート

2016年度 神戸学院大学附属高等学校 \* 5点満点で記入

<b>学校教育目標</b>
社会の中で自分を表現できる能力、自ら問題を発見し、解決・分析していく能力を身につけた人間を育成する。
<b>重点目標</b>
・積極的に意欲を持って学習できる生徒の育成 ・多様化する生徒に応じた進路の確保 ・国際感覚を身につけた生徒の育成 ・教育の情報化の推進

領域	評価の観点	評価項目	実践目標	2015年	2016年		
学校運営	開かれた学校づくり	家庭や地域への情報発信	学校ホームページ、情報通信、育友会新聞を活用して情報を提供する	1	4	4	
		学校公開の取り組み	公開授業、オープンハイスクールの実施	2	4.1	4	
		地域との交流	区、地域主催の行事に参加するとともに運営の手助けをする	3	3.3	3.4	
	学校運営全般	育友会活動	育友会の学校行事参加協力ならびに研修会の実施	4	4.1	4	
		教育目標達成	教育目標達成に向けて教員が共通理解し、意欲的に取り組む	5	3.1	3.1	
		校務分掌	教育活動が組織的に機能するよう配慮する	6	3.1	3.2	
		各種委員会機能	分掌間の連携を取ると共に、各種委員会の開催により機能を調節する	7	3.1	3.2	
	生徒指導	学年学級経営	共通認識を持った学級運営を学年で調整し、適切な教育活動を図る	8	3.4	3.4	
		生徒指導方針の共通理解と指導体制の確立	生徒指導方針の共通理解と指導体制の確立	生徒指導方針を明確にし、教員間で共通認識を持った形で指導に当たる	9	3.3	3.3
			基本的生活習慣の確立	挨拶、時間厳守、言葉遣いなど高校生活にふさわしい行動と身なりができる生徒の育成	10	3.3	3.2
		交通安全指導	通学マナーを守り、交通安全を心掛けるよう指導し、登下校指導を行う	11	3.6	3.3	
		生徒理解の取り組み	個別相談を定期的に行う。パソコンを使った情報収集を徹底する。カウンセラーによる教育相談	12	3.4	3.6	
		地域・関係機関との連携	地域、諸機関との連絡を密にし、中学校とも情報交換し、連携した指導を行う	13	3.3	3.2	
		進路指導	進路指導体制の充実	3年間を見据えた年間計画を作成し、継続的に組織的に進路指導する	14	3.3	3.2
			職業観・勤労観の育成と進路意識の向上	外部講師による進路講演会を開催し、生徒の職業観・勤労観を高め、進路通信などを通じて意識を高めていく。	15	3.7	3.3
	進路に対応した学力の育成		早朝学習や受験講座、長期休暇補習、学習合宿によって必要な学力の向上をめざす。	16	3.3	3.4	
	個々の生徒に適した指導の充実		個別面談、進路調査により、生徒の希望、適性を知り、個々に適した指導をする	17	3.5	3.5	
	教職員の資質向上	実践的指導力の向上	年間を通して公開授業を実施し、授業における指導力の向上に努める	18	3.3	3.1	
		計画性を持った研修の実施	各種校内研修を実施し、校外研修にも参加できる体制を整える	19	3.1	3.1	
		社会の変化に対応した教育観の育成	外部情報を積極的に取り入れ、各部会において積極的に社会変化に対応した教育システム作りを行う	20	3.2	3.2	
	危機管理体制の整備	実効ある学校マニュアルの策定	学校の実情に応じた危機管理マニュアルを作成し、内容を周知徹底する	21	3.1	2.9	
		家庭・地域・関係機関と連携した危機管理体制の推進	家庭・地域・関係機関と連絡を密にし、必要な情報を得、対策を検討する	22	3.3	3.2	
	教育課程	基礎・基本の定着	実践的な安全教育への取り組み	全校集会、防災訓練等を実施する	23	3.4	3.3
生徒の学力の把握と評価基準の設定			定期考査並びに実力試験の実施によって学力を把握し、それに基づいた評価を行う	24	3.5	3.3	
達成感ある指導方法の確立			達成感が味わえる授業の工夫を行う	25	3.3	3.1	
個に応じた学習指導		学習姿勢の育成	自ら学習計画を立て意欲的に学習に取り組む姿勢を養う	26	3.1	3	
		指導形態の工夫	選択授業や少人数教育による学習能力に応じた指導を行う	27	3.3	3.1	
		評価方法の創意工夫	各教科に応じた評価基準を作成し、共通認識のもとに評価点検を実施する	28	3.4	3.3	
自学自習の育成		体験的・問題解決的な学習の展開	体験的学習、問題解決学習が効率を上げる教科においては積極的に取り入れ実践する	29	3.5	3.3	
		興味・関心を高める指導	生徒が興味をいだく授業を工夫し、積極的な学習態度を要請する	30	3.3	3.3	
総合的な学習の時間		指導体制の確立	担当教員の連絡を密にし、目的に沿った展開を工夫する	31	3.5	3.4	
		目標達成	学習した内容の発表の場をつくることによって目的が達成されたか確認できるようにする	32	3.5	3.3	
		社会性を育てる特別活動	人とのかかわりを重視した活動	33	3.5	3.3	
特別活動		部活動の活性化	生徒に関心を持たせるとともに積極的な参加意識を養う	34	3.4	3.3	
		生徒の主体性を育む学校行事の確立	文化的運動的感性を育てるような行事を工夫し、主体的に参加できるよう指導する	35	3.4	3.4	
		ホームルーム活動の活性化	計画的なホームルーム活動を立案し、生徒が主体的に考える時間とする	36	3.1	3.1	
体力・運動能力の向上		教育活動における体育活動	体育大会、球技大会、などの体育行事を工夫し、生徒が達成感を味わえるようにする	37	2.9	2.8	
課題教育	防災・安全教育	教員の防災教育に係る指導力・実践力の向上	防災訓練を立案し、教員が共通認識を持つ。教員の救急講習や研修を行う	38	3.3	3	
	人権教育	人権教育推進体制への取り組み	教員、生徒に対して研修会を立案し、人権について考える機会を設ける	39	3.3	2.9	
	情報教育	情報活用能力の育成	情報授業を中心に、生徒の正しい情報活用能力の育成に努める	40	3.4	3.5	
		情報機器を使った授業の推進	情報の授業以外の教科や、学校生活での日常においてコンピューターを使用する機会を工夫する	41	3.3	3.6	
	国際理解教育	他国の歴史や文化の理解	修学旅行、語学研修を通じて外国の歴史・文化を学ぶ	42	4	3.8	
		交流事業の推進	留学制度の充実、学校交流の実施を積極的に行う	43	4.1	3.9	
	環境・福祉教育	福祉体験活動の充実	福祉施設などへのワーキング活動参加や総合的な学習の時間で展開を組み立てる	44	3.9	3.4	
		環境教育の充実	環境への関心を高め、環境学習をいろいろな学習の場で組み立てる	45	3.4	3.2	
	学校の個性化・多様化	特色ある教育課程の編成	生徒の関心、進路によって教育課程を工夫し適切な選択を指導する	46	3.4	3.1	
		高大連携教育の推進	附属高等学校の利点を生かし、生き方、進路における学習活動を大学と共同で組み立てる	47	3.7	3.4	
平均				3.4	3.3		

## はじめに

2016年度学校評価は教員による学校評価、自己評価、1年生徒・保護者による学校アンケートを実施しました。

ここには今後の課題として、教員による学校評価と生徒・保護者による学校評価について簡単にまとめ報告します。

## 教員評価

教員による学校評価は質問項目ごとにあてはまる程度により1~5ポイントで評定をつけ項目間比較をするようにしました。表中の数値は、質問項目に対する教員の回答の平均値です。平均化すると、極端に低いもの高いものが見られなくなりますが、傾向で見た結果を下にまとめました。学校評価は7年目になりました。達成度を見る意味で、昨年の評価を並べ変化も見てみました。移転により大きく教育環境が変わり、評価についてもよくなる項目があるのか注目しましたが、むしろ全体的に下がっていました。せっかくの新しい教育環境を生かした教育が実践されていない状況も見受けられ今後の本校の大きな課題であります。又、平均値では読み取れませんが、先生によって各項目で教育評価が大きくわかれているものがあります。このことも大きな課題です。各項目が正しく認識されず、各個人の意識に温度差があり、成果につながっていないように思われます。

### 比較的评价が高いもの

以前から引き続き学校を見せるという活動の評価ポイントが高くなっています。また、育友会活動も以前からですが、充実してきており保護者が研修活動を行い、高校にかかわっていく姿勢が確立しつつあります。本校の特色である国際理解教育も評価ポイントが高くなっています。留学生の受け入れ、中国学生との交流、常勤のネイティブ教員の導入など徐々にステップアップはしてきています。

### 比較的评价の低いもの

移転後の危機管理マニュアルがまだ整理されておらず、早急に取り組む必要があります。また教育方法においては達成感をもたせる教育活動や人権教育を推進する必要があります。またグラウンド、体育館が改善されたにもかかわらず体育活動の評価が悪いことは大きな問題です。達成感や健康問題とも関わる体育活動の中身や行事との兼ね合いを点検していく必要があります。全体的にも0.2ポイントほど下がっている項目が半分近くあることは、ソフトの問題と、意識に温度差があることが課題になっていることが移転によってよりあきらかになってきているように思われます。教員一人ひとりがこの評価を意識しないことには改善につながらず、ただ数値を眺めるだけでなく、前向きな議論の場が必要と思われれます。

### 生徒・保護者評価

生徒保護者に関するアンケート結果については22項目で本校についてどう思うかを4段階評価したものと自由記述に記載された内容を検討してみました。情報量の違いから生徒と保護者の評価に違いが見られました。以前出ていた学校周辺環境を含めた学校施設に対するマイナス評価はさすがに移転によってなくなっていますが、まだ改善が途中のものもあって、さらなる改善を求める声もありました。たとえば部室など今後2期工事を含めた計画が必要とおもわれます。また、一人ひとりの教員の指導のあり方に個人差があることと、生徒への対応において、不満の声があるので、それぞれの先生方の教育力のレベルアップに繋がる研修を考えるとともに教員の働く姿勢の点検が必要と思われま

す。今年から始まった4コース制についてはそれぞれの特色が色濃くなったことから、コースによっては不満があり、これからまだまだ改善が必要と思われま

す。またipadを使ったアクティブラーニングもまだ活用が不十分なこともあり、メリットよりデメリットを訴える保護者の声大きいことも真摯に受けとめる必要があります。本来の目的にかなった使用の推進が必要です。

出口となる進学、進路指導が附属大学があることで、安易な選択や指導にもなっている面が感じられます。保護者、生徒の評価もそのような結果が出ています。生徒に対する積極的な指導や、生徒自身が自主的に考える体制を作っていく必要があります。

本校教育方針の高大連携、海外研修等は高い評価を得ているので、今後もさらなる充実を心がけていきたいと思いま

### 今後に向けて

今回の調査は学校評価活動の一環に過ぎず、今後この結果をもとに学校活動を精査し、よりよい教育活動を行っていく必要があります。毎年のことですが、内部評価にとどまらず、学外評価の検討も課題として残っています。移転に伴う教育環境の変化とともに、変わらない部分はありますが、社会の変化に沿った教育実践も変化する必要性を感じていま